



01



02



03



04



05



06

01/白いしぶきが猛々しい奥入瀬渓流のすぐそばを、自転車で力強く上っていく。02/奥入瀬渓流館内のモスボール工房。元プロレスラーで工房長の起田高志さんがつくった苔玉が展示・販売されている。03/明治時代の文人である大町桂月が魅了された十和田湖。ここから奥入瀬川が流れる。04/老舗の食堂「上高地」では、十和田市のご当地グルメ「十和田バラ焼き」をつくってもらう。05/奥入瀬渓流ホテルでは、目の前に広がる緑を窓越しにおいしいコーヒーを味わう。06/十和田橋の上から霞がかった渓流を眺める。近くには「青森十和田湖自転車道」もある。

コース2 十和田・奥入瀬

Treasures in Green Ride

美しい緑の森と清流が織りなす、十和田湖グリーンロード

2

走行距離:約24km 所要時間:約1時間30分



- A** 上高地食堂
十和田市法量焼山64-177
TEL:0176-74-2418
- B** 奥入瀬渓流館/モスボール工房
十和田市大字奥瀬字柳久保183
TEL 0176-74-1233
www.oirase.or.jp/keiryu/keiryu.htm

青森市内から南東に位置する八甲田連峰を越え、秋田県との県境近くに位置する奥入瀬渓流。東北の背骨とたとえられる奥羽山脈の最北端にあり、その源である十和田湖の3分の1は秋田のもの。焼山から子ノ口までのわずか14kmの区間に、噴火の土砂によってつくられた溪流美が凝縮されており、滝、奇岩、景勝が次々と現れる。

川沿いに、潤い満ちた木々の下を自転車で駆け抜ける爽快さは言葉にし尽くせない。川の轟く音が森に響き渡る「阿修羅の流れ」では、自転車のフリーがまわるチッチチという音もかき消すほどの迫力。

新緑・紅葉シーズンは多くの観光客で賑わうが、混雑する時期も自転車なら気にせず旅ができる。奥入瀬渓流館には、レンタサイクルもあるので利用してみるのもいい。

お腹が空いたら、十和田市のご当地グルメ「十和田バラ焼き」を食べてみてほしい。脂の多い牛肉とタマネギが甘辛ダレに絡まって、相性抜群。バラ焼きのタレは、お土産としても人気の商品になっている。

ペダルを漕いで汗をかいた後は、十和田湖温泉郷へ。少し足を伸ばせば秘湯、薦温泉もある。癒しの出で湯にも事欠かないエリアだ。